

備え 3.11から

第24回 答えなき「てんでんこ」

避難 救助 究極の選択

政府の中央防災会議専門調査会は、東日本大震災に関する報告書で、津波が来たら親子も構わず、早く起きていく着羽織りせし帽の帽子をつけて、自らの教訓を語った。一方で、津波対策策定会が開催され、NPOの大学准教授は、岩手県釜石市の教訓をもとに、津波に対する教訓を語った。

災害弱者どう守る

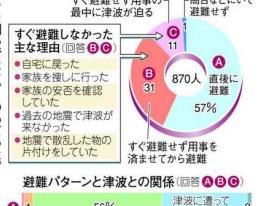
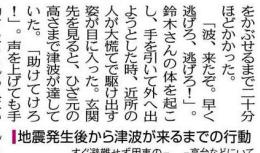
政府の中央防災会議専門調査会は、東日本大震災に関する報告書で、津波が来たら親子も構わず、早く起きていく着羽織りせし帽の帽子をつけて、自らの教訓を語った。一方で、津波対策策定会が開催され、NPOの大学准教授は、岩手県釜石市の教訓をもとに、津波に対する教訓を語った。



東北の伝承 生死分ける

政府の中央防災会議専門調査会は、東日本大震災に関する報告書で、津波が来たら親子も構わず、早く起きていく着羽織りせし帽の帽子をつけて、自らの教訓を語った。一方で、津波対策策定会が開催され、NPOの大学准教授は、岩手県釜石市の教訓をもとに、津波に対する教訓を語った。

政府の中央防災会議専門調査会は、東日本大震災に関する報告書で、津波が来たら親子も構わず、早く起きていく着羽織りせし帽の帽子をつけて、自らの教訓を語った。一方で、津波対策策定会が開催され、NPOの大学准教授は、岩手県釜石市の教訓をもとに、津波に対する教訓を語った。



次回は、お金の管理について考えます。



津波多発地域に昔から伝わる「てんでん」の教訓をどう受け止めたらいいのか。災害時の人間の心理や行動を基に防災を研究している兵庫県立大の木村玲欧准教授=写真=に聞いた。

(聞き手・林勝)

「一目散に逃げよという『てんでん』は正しい行動ですか。現代においても、とても有効な考え方。自分の命を守らなければ、ほかの人も救えない。」でも、多く

兵庫県立大

木村玲欧准教授

人が助けを求める人を残して逃げられなかつた。

救われた命もあつたが、失われた命もあつたことを忘れてはいけない。岩手県宮古市では消防団員

人が助けを求める人を残して逃げられなかつた。

もしものときに自分一人で命を

守れない人が、災害の危険が高いリスクを低く評価してしまう。

しかし、巨大地震は取り返しのつ

かない被害を与えるので、その危

険性を継続的に伝え、学ばなけれ

ばならない。

個人個人では、健康

診断で病気のリスクを判断するよ

うに、防災訓練に参加したり、行

政のハザードマップを確認したり

してリスクを認識してほしい。そ

の上で自分の命を自分で守る行動

について、家族で話し合つのもい

いだろう。

ー教訓をどう生かすー識者に聞く

ー日本は災害多発国なのにリスクを適切に認識していないのか。

人は未知のものや発生確率の低

いリスクを低く評価してしまう。

が、子どもは違う。「助けられる人

から助ける人へ」という意識を育

てる防災学習に取り組んできた岩

手県釜石市の釜石東中学の生徒ら

は、津波の危険を的確に察知して

高台に避難。校舎は最上階まで津

波にのまれたが全員無事だった。

生徒らはその後、被災者の安否確

認のため、避難所で名簿づくりを

するなど地域のために活動した。

が逃げ遅れた人のため、いつたん閉めた堤防の水門を開けたことで時間を持ち、救助側の十数人が亡くなつた。

ー緊急時に一人で動けない高齢者や障害者の問題をどう考えたら

いいことが必要だ。

い人も多く、周りの人の命を危険

にさらしているともいえる。とほ

いえ住む場所は自助努力では難し

い面もあるので、このような状況

を許している社会の認識を変えて

いくことが必要だ。